

平成25年度 第1回産業廃棄物処理施設専門委員会 議事要旨

| | |
|---------|--|
| 日 時 | 平成25年9月10日(火) 10:00~11:45 |
| 場 所 | 埼玉会館 7B会議室(埼玉県さいたま市浦和区高砂3丁目1-4) |
| 委 員 名 | 池口委員長、荒井委員、岩本委員、河村委員、木村委員、藤吉委員、 |
| 県 担 当 者 | 半田副部長 (産業廃棄物指導課) 葛西課長、金子主幹、田口主査、稲原主査、渡辺主査、山口主任、 永吉主任、加藤技師 (東部環境管理事務所) 三上担当課長、新井主事 (越谷環境管理事務所) 戸張主任 |
| 傍 聴 者 等 | ・さいたま市 2名 ・川越市 2名 ・傍聴者 6名 |

| 【1. 会議の公開の可否】 | | |
|---------------|---|---|
| 進 行 | 発言等 | |
| 1 | <p>会議の公開について説明を求める。 (委員長)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・設置要綱第6条の規定に基づいて、原則公開とすることになっています。 ・会議を公開する場合には、委員長は必要な条件を付することができることになっています。 <p>(事務局)</p> |
| 2 | <p>意見質問がなければ、公開の原則に従い、本会議は公開としたい。 (委員長)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・異議なし <p>(各委員)</p> |

| 【2. 産業廃棄物処理施設設置許可申請について】 | | |
|--------------------------|---|--|
| 質問・意見 | 回答 | |
| 1 | <p>計画している施設と同様の焼却施設の納入実績はあるか。 (委員)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ドラム処理室が焼却炉本体に接続した焼却施設は、20件ほど納入実績がある。 ・キルン+ストーカ+ドラム処理が、約10件 ・ストーカ+ドラム処理が、約10件。 ・申請と同様のキルン+水冷ストーカ+上部下部ドラム処理のものが、福井県に1件ある。能力的もほぼ同じもの。 ・上部ドラム室がある焼却施設は実績として少ない。 (事務局) |
| 2 | <p>ストーカ、キルン、ドラム処理室それぞれで処理する廃棄物の割合はどのくらいか。 (委員)</p> | <p>(混燃能力計算書 組成図から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚泥、動植物性残さ等はほとんどキルン炉から入る。全体の3分の1程度である。 ・廃プラ、木くず、紙くずなどはストーカ炉から入る。 ・ドラム処理室での処理時間は、30分～1時間。上部下部合わせて、一日に最大100本程度である。 (事務局) |
| 3 | <p>廃熱ボイラについて次の点を確認したい。 ① 廃熱ボイラは、入口温度が898℃、出口温度が388℃となっている。この出口温度の設定は、ダイオキシン類の再合成を避ける目的もあるが、ボイラの温度が下がったとき、再合成のリスクがある。本リスクの有無の確認のため、ボイラの水管の配列、排ガスの流れなどを確認したい。 ② 本廃熱ボイラのダストの清掃の方法は。 (委員)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・事業者を確認する。 (事務局) |
| 4 | <p>ドラム缶処理室では揮発性爆発性の燃料が入ってくることも考えられるが、防爆対策や爆風抜けの設計がされているのか。あるいは、防爆対策等の必要はないのか。 (委員)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・事業者を確認する。 (事務局) |

| 質問・意見 | | 回答 |
|-------|---|--|
| 5 | <p>運転管理について次の点を確認したい。</p> <p>① 運転管理要員の人数</p> <p>② 炉立ち上げ時のプロセスと必要な要員の数</p> <p>③ 運転管理の自動化の程度 (委員)</p> | <p>・ 事業者を確認する。 (事務局)</p> |
| 6 | <p>停電時の対応はどうか。 (委員)</p> | <p>・ 非常用発電機が設置されている。 (事務局)</p> |
| 7 | <p>廃酸・廃アルカリのタンクの取扱いに関して、受け入れ時のチェック体制はどうか。 (委員)</p> | <p>・ 種類の違う廃酸が入ってくるときは、性状の分析だけでなく、今まで受け入れてタンクに残っている廃酸とこれから受け入れる廃酸との反応チェックを行う。 (事務局)</p> |
| 8 | <p>反応チェックとは具体的には何をするか決まっているか。 (委員)</p> | <p>・ 種類の異なる廃酸や廃アルカリを混ぜるときに、発熱やガスの発生がないようにチェックするが、具体的な内容については確認して回答する。 (事務局)</p> |
| 9 | <p>給排水フローによると、生活排水は下水放流するにもかかわらず浄化槽を経由しているが、なぜか。 (委員)</p> | <p>・ 事業者を確認する。 (事務局)</p> |
| 10 | <p>廃棄物の発熱量を 2894kcal としているが変動幅はどの程度見込まれているか。 また、排ガス量の変動をどのくらい見込んでいるか。 (委員)</p> | <p>・ コントロールできる変動等については、確認して回答する。 (事務局)</p> |
| 11 | <p>排ガス量 27000N m³/h というのは、何 kcal の廃棄物を処理した時の値を想定しているか。 (委員)</p> | <p>・ 2894kcal/kg を想定にしている。 (事務局)</p> |
| 12 | <p>ストーカ炉については、攪拌、反転がうまくいってないと適正に処理できないと言われていたが、本焼却炉はどのように設計されているか。 (委員)</p> | <p>・ 燃焼物がストーカの上で回るような機構ではないが、中の状況を見ながらプッシャーの作動間隔を制御し、ストーカ上の廃棄物を押し出しながら適正燃焼させるようになっている。 (事務局)</p> |

| 質問・意見 | | 回答 |
|-------|--|---|
| 13 | <p>燃焼用空気としてピットやプラットホーム内の空気を使うということだが、時間当たりの換気回数ほどのくらいか。負圧に保てるのか。</p> <p>(委員)</p> | <p>・廃棄物が満載しているときは4. 2回/時、空のときは3. 6回/時の換気能力があり、負圧に保つことは可能である。</p> <p>(事務局)</p> |
| 14 | <p>ダウンドラフトが発生した等の緊急時・異常時の対応について、その手順をマニュアル化をする必要がある。</p> <p>(委員)</p> | <p>・誰がやっても対応できるように、事業者を指導する。</p> <p>(事務局)</p> |
| 15 | <p>液体を噴霧する際に、奪われる熱量は計算されているか。</p> <p>(委員)</p> | <p>・能力計算書において、廃酸・廃アルカリはマイナスの発熱量として計算している。</p> <p>(事務局)</p> |
| 16 | <p>雨水など、廃棄物由来以外の水の蒸発熱量等は能力計算に見込まれていない。熱量が足りなければ重油の量を増やせる等の対応をすることは可能か。</p> <p>(委員)</p> | <p>・確認する。</p> <p>(事務局)</p> |
| 17 | <p>今回の計画に一番近いタイプの焼却炉について、窒素酸化物等ほどのくらいの値なのか。また、バラつきはあるか。</p> <p>(委員)</p> | <p>・調べて回答する。</p> <p>(事務局)</p> |
| 19 | <p>関係市町村からの意見にはどう対応するか。</p> <p>(委員)</p> | <p>・廃棄物は全て建屋内保管をするなどのカラスや臭い対策をしている。</p> <p>・意見のうち、今回の計画に直接関係がないものについては、別途対応していく。</p> <p>(事務局)</p> |
| 20 | <p>生活環境影響調査書 p109 の騒音レベルは、処理物が入った稼働時の値なのか、空運転時なのか。</p> <p>(委員)</p> | <p>・本計画と同じような廃棄物を処理した時の実測値である。</p> <p>(事務局)</p> |
| 21 | <p>キルンとストーカのつなぎ目のシールはどのようにしているのか。</p> <p>(委員)</p> | <p>・確認する。</p> <p>(事務局)</p> |

| 質問・意見 | | 回答 |
|-------|--|--|
| 22 | 下部ドラム室とストーカ部への扉は、ドラム缶を注入するときは閉めて、ドラム缶を燃やすときは開けるのか。 (委員) | ・基本的にドラム処理室を使用するときは、ストーカとの境目は開いた状態。 ・ドラム処理室を使用しないときは、ストーカとの境目は閉じている。 (事務局) |
| 23 | 炉内温度 800℃を 2 秒保つというのは、入口から出口までの容積と流速から確認されているのか。 (委員) | ・申請書の中に再燃焼室の容積の計算書があり、再燃焼室の容積と流速との関係から 2 秒以上滞留することを証明している。 (事務局) |
| 24 | 炉内温度が 800℃を割り込む状況となった場合、バーナーで復帰させるのか。あるいは、ストーカ炉の空気量等で調整するのか。 (委員) | ・再燃焼室の入口出口に温度計が設置されており、燃焼温度が下がった場合、自動でバーナーが点火され 800℃以上を維持する計画である。 (事務局) |

| 【3. 今後について】 | | |
|-------------|---|---------------------|
| 進 行 | | 発 言 等 |
| 1 | 意見が出ているので、再度委員会を開くことでよいか。 (委員長) | 異議なし。 (各委員及び事務局) |
| 2 | 後程、事務局と相談して質問事項を整理し、委員に目を通してもらい了解を取った上で事業者と相談する、という手順で進めたいが、よいか。 (委員長) | 異議なし。 (各委員及び事務局) |
| 3 | 今回質問できなかった内容や追加等については、9/20をめぐりに事務局へ提出し、それを考慮して次回専門委員会の日程を調整する。 (委員長) | |